

田中隆尙撰集

第一卷

田中隆尙撰集 第一卷

平成十八年六月十五日印刷
平成十八年六月二十五日發行

著 者 田 中 隆 尙

發行者 唐 澤 明 義

發行所 展 望 社

郵便番號一・二・〇〇〇二
東京都文京區小石川三・一・七

エコービル二〇二
電 話 〇三(三八一四)一九九七

FAX 〇三(三八一四)三〇六三
振替〇〇一八〇・三・三九六二四八

印刷・壯光舎印刷／組版・エムツークリエイト

ISBN4-88546-137-5

歌集
一

目次

降雪

昭和十五、十六年

秋に病む(三十一首) 二五

二號室(二十七首) 三一

黃道歸還(七首) 三六

嫁ぎゆく君へ(八首) 三七

車中(二首) 三八

白濱(二首) 三八

窓(十一首) 三九

修善寺(八首) 四〇

昭和十七年

西遊吟

比叡山(十二首) 四二

日向灘(八首) 四四

青島(一首) 四五

阿蘇山(四首) 四五

山中湖畔吟(八首) 四六

向日葵(五首) 四七

徳本峠越(二首) 四八

昭和十八年

霜(五首) 四九

戸隠(十一首) 五〇

まぼろし 其一(十一首) 五一

まぼろし 其二(八首) 五三

血の文字(五首) 五四

桔梗の歌(二十首) 五四

兄に寄す(五十三首) 五七

昭和十九年

峽の雪(八首) 六五

手帳より(二十首) 六六

科戸の風(二首) 六九

茜のとさか(十一首) 六九

笹の葉(十一首) 七〇

姉とくだかけ(十七首) 七二

田中隆行一周忌(五首) 七四

唐芋(八首) 七五

電信柱(五首) 七六

昭和二十年

寒(五首) 七六

退去(十四首) 七九

あかつきの月(十一首) 八一

穹窿(八首) 八二

しはぶき(十四首) 八三

鬢の毛(十一首)	八五
南の風(十一首)	八七
獨言(八首)	八九
上ノ山(四首)	八九
みちのく(十一首)	九〇

昭和二十一年

ふたり(五首)	九二
雪雲(五首)	九三
雪しづく(五首)	九三
桃の實(五首)	九四
麥の穂(八首)	九五
こじゆけい(八首)	九六
萬象(八首)	九七
志賀高原(八首)	九八
燃ゆる火(八首)	九九
餓鬼(五首)	一〇〇

諏訪根自子のために(八首)……………一〇一

群盲(二首)……………一〇二

越後路(八首)……………一〇三

大石田より酒田(八首)……………一〇四

佐渡を望みて(八首)……………一〇五

おほつごもり(五首)……………一〇六

あとがき

いさゝぢ

昭和二十二年

月圓(十一首)……………一一一

山茶花(五句)……………一一二

南十字星(八首)……………一一三

漫成數篇

アワンチユウル(三首)……………一二四

桃の蕾(三首)……………一二五

春寒(二首)……………一二五

木瓜の花(五首) 二六

瓜哇芋(十一首) 二六

うつしみ(十一首) 二八

夏より秋(五句) 二〇

ひとり愁ふる(十首) 二〇

艸堂(十首) 二三

百舌(八首) 二三

穴門豊浦(五十二首) 二四

昭和二十三年

枇杷の花(八首) 二三

籠居(五首) 二三

行路吟(十一首) 二四

雲雀(五首) 二五

松風(十一首) 二六

砂の園(十一首) 二八

鶏の卵(八首) 二九

斷片(二十首) 一四〇

九月三十日(十一首) 一四三

瞽者のために(十一首) 一四四

雨脚(十四首) 一四六

朝餉(八首) 一四八

しろじも(五首) 一四九

電氣時計(五首) 一五〇

寒蟾(十四首) 一五〇

昭和二十四年

白梅(五首) 一五三

第一高等學校挽歌(二十五首) 一五四

通路(八首) 一五七

高瀬川(八首) 一五八

奈良小吟(五首) 一六〇

長府滞在吟 其一(二十六首) 一六一

長府滞在吟 其二(三十二首) 一六四

勝山微吟(五首) 一六八

蜜蜂(十一首) 一六八

インフラチオ(十一首) 一七〇

箱根路(十一首) 一七二

無爲(八首) 一七三

蛸螳(十一首) 一七四

納豆賣(十一首) 一七六

信濃路(十一首) 一七七

隨緣赴感

叔母長逝(五首) 一七九

懺(二首) 一八〇

汗穢(一首) 一八〇

昭和二十五年

因緣(八首) 一八一

精神の病人(十一首) 一八二

最後の一高生(五首) 一八四

馬頭觀世音(五首)		一八四
棒給日(五首)		一八五
砂丘(五首)		一八六
恩(五首)		一八七
ななのひかり(二十三首)		一八七
方丈(五首)		一九〇
業障(八首)		一九一
しほなわ(五首)		一九二
白鳥(八首)		一九三
此日頃(八首)		一九四
新しき道(五首)		一九五
寒苦鳥(十一首)		一九六
昭和二十六年		
沙路(七首)		一九八
つきしろ(十四首)		一九九
劫初より 其一(八首)		二〇一

劫初より 其二(十一首) 二〇二

隨緣隨時

兄別居(四首) 二〇四

兄(五首) 二〇四

此日頃眼鏡を掛けぬ(五首) 二〇五

十全醫院(五首) 二〇六

牛蛙(八首) 二〇七

挽歌(二十六首) 二〇八

簞(十一首) 二一一

童馬山房叩門(八首) 二二三

紺の水(十一首) 二二四

第二刷あとがき

みづしも

昭和二十七年

千珠満珠 その一(十四首) 二二一

宮崎へ(五首) 二二三

宮崎(十四首) 二三四

青島(五首) 二二六

宮崎を去る(五首) 二二六

干珠滿珠 その二(二十九首) 二二七

前橋赴任(八首) 二二一

雨後の利根川(五首) 二二三

最後の審判(五首) 二二三

獨居の吟(十四首) 二三四

昭和二十八年

廊橋より(十四首) 二二六

齋藤茂吉先生逝去(十一首) 二三八

穴門に歸りて その一(三十二首) 二二九

穴門に歸りて その二(三十五首) 二四三

大蒜の汁(五首) 二四八

利根川(五首) 二四九

菅野尙一大將薨去(八首) 二四九

月蝕(五首)		二五〇
豐浦漫吟 その一(十四首)		二五一
日向小吟(十一首)		二五三
豐浦漫吟 その二(八首)		二五五
假住を移る(五首)		二五六
秋の廐橋(八首)		二五六
かみつけより(二十首)		二五八
鐵瓶の音(八首)		二六〇
昭和二十九年		
病臥閑吟 その一(七十四首)		二六二
病臥閑吟 その二(四十一首)		二七一
病臥閑吟 その三(四十七首)		二七六
勤務に出づ(五首)		二八二
ひばりのひな(五首)		二八三
假住の部屋(五首)		二八四
木瓜の返り花(五首)		二八五